

評価規準を明確にした物語教材の授業づくり — 単元構想シートの作成を通して —

有田市立初島小学校
教諭 上田敏樹

【要旨】

本研究では、小学校国語科「読むこと」領域における物語教材において、単元構想及び指導の工夫を提示する。「単元構想シート」と「指導過程5段階モデル」を用いることで、「言語活動ツール」を取り入れた授業における評価規準の明確化、指導と支援の充実を図る。授業では、指導のねらいと学習内容を適切に捉えた評価が可能となり、個に応じた指導と支援が行われるとともに、当初のねらいに基づく学びへと導くことができた。

【キーワード】

評価規準 物語教材 単元構想シート 指導過程5段階モデル 言語活動ツール

1 研究の目的

本研究の目的は、小学校国語科「読むこと」領域における物語教材において、言語活動を取り入れた授業を通して、当該単元で付けたい国語科の能力（以下、付けたい力と略記）を育成する、単元構想及び指導の工夫を提示することである。ここでいう付けたい力とは、小学校学習指導要領解説国語編の指導事項の内容を指す。また、言語活動は、児童の主體的な思考・判断が生かされる課題解決の過程となるよう、単元全体を通して位置づけたものを指し、その際用いるリーフレット等の具体物を総称して言語活動ツールと呼ぶ。

筆者は、平成25年度和歌山県教育センター学びの丘による研修講座「小学校教育実践研修（国語科）」の受講を契機に、水戸部（2011）の提唱する「単元を貫く言語活動」を位置づけた授業を取り入れてきた。その結果として、児童の学ぶ意欲の向上と、根拠を示した表現活動への成果を得た。しかし、その反面、活動に偏った指導過程に陥ることも多く、付けたい力の確実な習得には至らなかった。また、文章から根拠を得る場面、授業を通して自らの根拠を再構築する場面の指導に課題を有していた。

そこで、これまでの筆者の取組を省察し、指導のねらいに基づく単元構想、評価規準を明確にした授業づくりを課題と把握するに至った。そのため、その課題解決の手段として、単元構想シートを作成し、物語教材の授業づくりについて研究することにした。

2 研究の内容

単元の構想及び授業づくりは、指導のねらい、学習内容を適切に把握したうえで行う必要がある。また、評価規準の設定は、評価時の児童の姿を想起して、評価の観点、評価方法を明確にしなければならない。そこで、小学校学習指導要領解説国語編（「指導事項」、「言語活動例」）、教科書（「教材文」、「学習の手引き（注1）」）、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料〔小学校 国語〕」をもとに、指導のねらい、学習内容、評価内容を適切に捉え、単元の構想及び授業づくりを行う。

本研究では、指導のねらいと学習内容を関連づけて捉える手段として、「学習の手引き」を用いる。これは、児童に学習の見通しを持たせるため、単元で読み取る内容や学習する知識や技能を具体的に示したものである。そのため、学習内容が把握できるだけでなく、指導のねらいの具体を捉えることができる。そこで、「指導事項」と「学習の手引き」を中心に教材研究を行い、その結果を「単元構想シート」（図1）に示す。単元構想シートは、これら全体のつながりを可視化することを目的に作成したものである。このシートを活用することで、単元の構想及び授業づくりをより効果的なものに導く。

(1) 単元構想シート I による評価規準の設定

単元構想シート I は、①「学習の手引き」の内容分析、②付けたい力、③言語活動とその内容、④単元の評価規準で構成し、単元の評価規準の設定を目的とする。

「学習の手引き」の内容分析は、学習の手引きに示される内容を指導事項と関連づけることで行う。そのうえで、付けたい力の設定と、言語活動の選定、その内容の決定を行う。そして、指導のねらい、学習内容を関連づけて、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料〔小学校国語〕」をもとに単元の評価規準を設定する。このように、「学習の手引き」の内容を中心に据え、付けたい力と言語活動、評価規準を一体として捉える。

(2) 単元構想シート II による指導計画の作成

単元構想シート II は、⑤学習活動、⑥言語活動、⑦指導事項からなる指導計画と、⑧評価規準及び判断のポイントで構成する。指導のねらいに基づく学習活動及び評価規準の設定を目的とし、指導事項を常に意識できるものとした。

指導計画は、付けたい力を念頭に置き、第三次から遡って作成する。また、本研究では、言語活動ツールを用いた学習過程を取り入れるため、指導のねらいが活動に偏らないよう、指導事項との関連を重視して評価規準を設定する。そして、評価内容には、指導のねらいを明示し、評価の観点、評価方法を明記することで評価規準の明確化を図る。さらに、評価規準及び判断のポイントには、「十分満足できる状況 A を満たす要素」、「努力が必要な状況 C と具体的な支援」を示すことで児童の学習時の姿を多面的に捉え、授業における個に応じた指導と支援の充実を図ることにした。このように、指導と学習、評価を一体として捉えた授業づくりを行う。

(シート I)				
①「学習の手引き」の内容分析				
②付けたい力				
③言語活動とその内容				
④単元の評価規準				
(シート II)				
時	⑤学習活動	⑥言語活動	⑦指導事項	⑧評価規準及び判断のポイント

図1 単元構想シート I, II

(3) 指導過程の構想

指導過程には、伊藤（2013）が提示する「指導過程 5 段階モデル」(注 2) を取り入れる。伊藤は、白石（2011）の「3 段階の読み」(注 3) に水戸部の課題解決の手法を融合させ、「第 1 段階(i)：見通し、第 2 段階(ii)：全体読み I、第 3 段階(iii)：細部読み、第 4 段階(iv)：全体読み II、第 5 段階(v)：活用」という指導過程を構想し、そのねらいを表 1 のように述べている(※ 1)。本研究では、(ii) 全体読み I の「すべての児童の読みのレベルを一定の基準にまで引き上げること」を念頭においた指導に着目する。それは、筆者の課題、読み取りに課題のある児童への効果的な支援に由来する。そのため、言語活動ツールの構成要素にも、全体読み I がねらいとする内容を設定し、その効果を求める。また、本研究は、言語活動ツールを用いた習得と活用を取り入れることから、(v) 活用は、第二次を通して設定する。このような考えのもと、表 2 に示す指導過程 5 段階モデルを構想し、授業づくりを行う。

表 1 指導過程 5 段階モデルの指導のねらい

第1段階(i):見通し	第2段階(ii):全体読み I	第3段階(iii):細部読み	第4段階(iv):全体読み II	第5段階(v):活用
児童に作品や文章を何のために読み進めていくのかという目的意識を持たせることを意図している。最終段階の第5段階で行う学習過程を児童にイメージさせることで、主体的に学習に取り組む意欲を持たせ、思考の活性化を図る。	作品や文章の全体を捉え、その設定について読む。はじめ・なか・おわりの3つの場面や部分に分けることで、中心人物の変容や筆者の意図などを捉えていく。なお、この段階ですべての児童の読みのレベルを一定の基準にまで引き上げることにも念頭に置いて指導する。	事件や人物の因果関係や筆者の意図を捉える。決して、内容のなぞり読みをするのではなく、文章を構造的に読み取っていく。	ここまでの読みをふまえて、主題を捉えたり筆者の意図を捉えたりするなど、文章全体に対する自分の考えを持つようにする。	児童自身が、学習で得た力を発揮できる表現の場を設定する。学んできた基礎・基本を授業の中で生かす場を設定し、さらに発展した力にしていける。

表2 指導過程5段階モデル(左:伊藤, 右:本研究)

伊藤のモデル		本研究で取り入れるモデル		
第一次	(i)見通し	第一次	(i)見通し	
第二次	(ii)全体読みⅠ	第二次	(ii)全体読みⅠ	(v)活用
	(iii)細部読み		(iii)細部読み	(v)活用
	(iv)全体読みⅡ		(iv)全体読みⅡ	(v)活用
第三次	(v)活用	第三次	まとめ	

(4) 単位時間の評価方法の決定

評価は、主に、行動観察とワークシートへの記述から判断する。行動観察は、その場の児童の実態に即した指導と支援につながる。記述は、授業後に児童の実態を捉えたり、その後の指導を考えたりするうえで有効である。そこで、この二つを併用して、評価を行うことにした。

授業に際しては、指導細案及びワークシートを作成して対応する。指導細案は、単元構想シートⅡをもとに作成し、発問、指示、児童の反応、支援の具体等を明記することで、指導と支援、児童の思考の流れを適切に捉えられるようにした。ワークシートには、評価時の児童の学習活動が把握できるものを設定し、学習に対する意識を捉える目的で、ふり返り（自己評価と自由記述）の欄も設けた。

3 教材「やまなし」による実践

単元構想シートを活用し、教材「やまなし」による評価規準を明確にした単元を構想した。光村図書「国語六」には、本教材と宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」と関連づけて読む活動が設定されており、読書の世界を広げる目的で関連図書も紹介されている。そこで、教科書教材と他作品をもとに単元を構想し、所属校による提案授業を実施した。

(1) 単元構想シートⅠによる評価規準の設定

「学習の手引き」の内容は、文学的な文章の解釈（Cエ）、効果的な読み方（Cイ）、目的に応じた読書（Cカ）で構成されている（表3）。そこで、付きたい力を「場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること（Cエ）」とし、「目的に応じて複数の本や文章を効果的に読むこと（Cイ、Cカ）」の向上も目指す。言語活動は、「本を読んで推薦の文章を書くこと」とし、そのツールとして、推薦リーフレット「スライドブック」（図2）を考案した。構成要素は、「物語の設定（登場人物、概要、関係図）を読み取る：スライドマップ」、「場面の描写を捉える：キャッチコピー」、「作品の魅力を推薦する：スポットライト」とし、第2段階（全体読みⅠ）と第4段階（全体読みⅡ）の指導過程に位置づけた。そのうえで、単元の評価規準を設定した（表4）。

表3 「学習の手引き」の内容分析

②「学習の手引き」の内容分析		指導事項	重点指導事項(Cエ)との関係	
リード文	すぐれた表現を味わいながら読み、自分なりの思いや考えをもとう。	Cエ、伝国イ⑦	優れた叙述について自分の考えをまとめる(表現や内容)	
課題	物語にえがかれた世界を、自分なりに捉える。	Cエ	場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	
内容(1)	谷川の様子を文章から捉える。	簡単な絵や図に表す。	Cエ	場面についての描写(行動、会話、情景で暗示的に示したものを捉えるため)
内容(2)	二つの場面对比し、考えをまとめる。	会話や様子、水や光の様子、色、侵入者	Cエ、Cイ、伝国イ⑧	優れた叙述(象徴性や暗示性が高い、メッセージや題材を強く意識させる)
内容(3)	作者の独特の表現から、その情景を想像する。	オノマトペ、比喩など	Cエ、伝国イ⑨	優れた叙述(感動やユーモア、安らぎなどを生み出す叙述)
自己評価	「やまなし」の中で、どのような言葉や表現に心を引かれたか。	Cエ、伝国イ⑩	優れた叙述(上記内容(2)(3))	
たいせつ(1)	登場人物の心情や場面の様子などを想像し、作品世界を理解する。	Cエ	場面についての描写、優れた叙述	
たいせつ(2)	読んで感じ取った自分の思いの表現方法を考える。	Cエ、伝国イ⑪	優れた叙述の評価と自分の表現に生かすこと	
たいせつ(3)	必要に応じて、作者について調べたり、作者の他の作品などを参考にしたりする。	Cイ、Cカ	優れた叙述を捉えるための工夫、手段	

(2) 単元構想シートⅡによる指導計画の作成

単元の指導計画は、指導過程5段階モデルに基づき、表4のように設定した。また、所属校の読書週間の取組と合わせて先行読書を計画し、推薦の対象作品についても授業までに読ませておくことにした。単元構成は、次のように設定した。第一次のねらいを、単元全体の見通しを持たせるとし、言語活動ツールである推薦リーフレットを用いた学習を行うこと、教材として「やまなし」、「イーハトーヴの夢」、「自分が選んだ一冊（以下、選んだ一冊と略記）」の三冊を用いることを認識させる。第二次は、付けたい力の習得と活用をねらいとし、「やまなし」での学習をもとに、「選んだ一冊」について、推薦リーフレット「スライドブック」の構成要素である、「スライドマップ」、「キャッチコピー」、「スポットライト」を作成させる。そして、第三次のねらいを全体のまとめと位置づけ、スライドブックを用いた交流により、多読のまとめとした。

評価規準は、指導事項Cエを重点指導事項に設定し、評価の観点、評価方法を明示するとともに、十分満足な状況Aを満たす要素、努力が必要な状況Cと支援の方法を明記した。

表4 評価規準及び指導計画(光村図書:国語六「やまなし」)

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
○「スライドブック」を通して、作者の人物像と作風を捉えながら、関心をもって作品を推薦しようとしている。	◎場面についての描写を捉え、優れた叙述について「スライドブック」に自分の考えをまとめることができる。(読Cエ) ○多読を通して作者の作品世界を捉えたいうえで、「スライドブック」に自分の考えをまとめることができる。(読Cイ、カ)	○作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方を理解している。
先行読書	宮沢賢治の作品(十冊)を事前に読む。	
第一次 (i)見通し	(1時)言語活動の目的を捉え、学習の見通しを持つ。	
第二次	習得・活用 (v)	(ii) 全体読み I
		(iii) 細部読み
		(iv) 全体読み II
		(2時) 作品の設定と概要を捉え、関係図に表現する。
		(3時) 作品の設定と概要を捉え、スライドマップに表現する。
		(4時) 場面の描写を捉え、キャッチコピーに表現する。
		(5時) 作者の人物像と作品の人物設定を捉える。
(6時) 作家としての願いと、作品に込められた思いを捉える。		
(7時) 表現に着目し、作品の情景描写を捉える。		
(8時) 「やまなし」の魅力について、自分の考えをまとめる。		
(9時) 「自分が選んだ一冊」の魅力、スポットライトに表現する。		
第三次 まとめ	(10時)スライドブックを交流し、作品の魅力を共有する。	

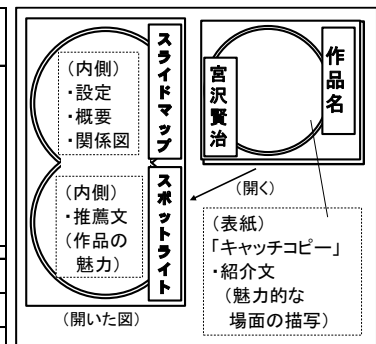


図2 推薦リーフレット「スライドブック」

(3) 指導過程5段階モデルによる指導過程の構想

本単元では、多読及び効果的な読み方の向上も目指すため、「やまなし」、「イーハトーヴの夢」に加え「選んだ一冊」も扱い、また、言語活動ツールである推薦リーフレットも活用する。そこで、それぞれの教材を指導過程5段階モデルのどの過程で取り扱うかを表5のようにまとめ、各段階の指導を次のように計画した。

表5 指導過程5段階モデルにおける指導過程の構想

指導過程5段階モデル	(i)見通し	(ii)全体読み I (v)活用	(iii)細部読み (v)活用	(iv)全体読み II (v)活用
教科書教材「やまなし」	○	○	○	○
資料「イーハトーヴの夢」	○	-	○	-
多読教材「選んだ一冊」	○	○	○	○
推薦リーフレット「スライドブック」	学習モデル提示	スライドマップ キャッチコピー	-	スポットライト

ア 第1段階：(i) 見通し

(i) 見通しは、児童に作品や文章を何のために読み進めていくのかという目的意識を持たせるために位置づける。ここでは、推薦リーフレット「スライドブック」のモデルを示すことで、最終段階の第5段階で行う学習過程を児童にイメージさせる。また、単元の学習過程と扱う言語活動ツールの構成要素を児童に示す学習計画表を提示することで、単元の見通しを持たせ、主体的に学習に取り組ませるようにする。

イ 第2段階：(ii) 全体読みⅠ

(ii) 全体読みⅠは、作品や文章の全体を捉え、その設定について読むことを目的に取り入れる。また、児童の作品に対する読みのレベルを一定の基準まで引き上げることで、習得時の一斉学習における共通理解と、活用時の個別学習における自力解決の向上も求めている。そこで、ここでは、作品の設定を読み取るというねらいのもと、推薦リーフレットの構成要素「スライドマップ」を作成させる。これは、物語の設定（時、場所、登場人物を記述する）、概要（あらすじを箇条書きで示す）、関係図（人物相互の関係を中心に表す）で構成する。そして、教科書教材「やまなし」を一斉学習による習得、「選んだ一冊」を活用に位置づけ、2時間で指導することにした。

また、場面の描写を捉える目的で、推薦リーフレットには「キャッチコピー」も設定し、作成させる。これは、物語の構成を理解するうえでも重要となる、作品中で印象深い場面を選び、紹介するというものである。また、選んだ場面を、「登場人物の言動」、「出来事」、「情景」に分類することで、次の段階の細部読みへの視点につなぐ役割も持つ。さらに、「スポットライト」で表現する作品の魅力を「場面の様子」、「物語の展開」、「情景描写」に設定したことで、最終の言語活動とも関連させる。

ウ 第3段階：(iii) 細部読み

(iii) 細部読みは、「人物の設定」、「物語の構成」、「情景描写」を読み取りの視点に設定する。その際、「やまなし」と「イーハトーヴの夢」をもとに、それぞれの視点と作者宮沢賢治の生き方や考え方を関連づけた読み取りを習得させる。さらに、「選んだ一冊」について、その読み取り方を活用するという構成をとる。

まず、「人物の設定」では、「イーハトーヴの夢」から、宮沢賢治の言動からその人物像を読み取らせ、物の見方や考え方を理解させる。そのうえで、「やまなし」において、登場人物の役割や関係を、「かわせみと魚」を「奪うものと奪われるもの」、「かわせみとやまなし」を「奪うものと与えるもの」というように対比の視点で読み取らせる。選んだ一冊についても、宮沢賢治らしさ、登場人物の役割、相互の関わり、対比や分類の視点から読み取らせるようにする。

「物語の構成」では、「イーハトーヴの夢」から、作者宮沢賢治の願いを読み取らせ、「やまなし」に込めた思いを考えさせる。ここでは、「人物の設定」で読み取った対比の視点を根拠に、五月と十二月の場面の意味を考えさせることで、物語の構成を捉えさせる。そのうえで、選んだ一冊についても同様に自力解決させることで、作品にこめられた思いと場面の意味から、物語の構成を捉えた読み取りを行わせる。

次に、「情景描写」では、オノマトペを始めとする宮沢賢治の表現技法を学んだうえで、「やまなし」の情景描写を読み取らせる。ここでは、作者の思いのこもった十二月の描写に目を向けさせ、表現技法を通して場面の情景を読み取らせるようにする。そして、読み取った情景を交流することで、作品世界をイメージさせる。選んだ一冊についても同様に、情景を通して作品を読み取らせるようにする。

エ 第4段階：(iv) 全体読みⅡ

(iv) 全体読みⅡは、全体読みⅠ、細部読みでの読みを踏まえ、文章全体に対しての自分の考えを持たせる学習である。ここでは、作品の魅力に対する自分の考えを「スポットライト」に位置づけ、根拠を示して記述する活動を取り入れる。その際、細部読みで得た対比や分類、作者が作品に込めた思いをもとに、叙述に対する自分の考えを記述させる。また、選んだ一冊をもとに同様の活動を行うことで、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめるという付けたい力の定着を図る。

オ 第5段階：活用

活用は、習得との効果的な連結を意識して、第二次を通して設定する。また、言語活動ツールを用いた学習（「スライドマップ」、「スポットライト」の作成）については、それぞれ1時間を設定するが、「キャッチコピー」の作成、細部読みの学習では、単位時間内に双方の学習を行う。このように、学習で得た力を発揮できる表現の場を適宜設定することで、

指導のねらいの定着を図るとともに、付きたい力の定着に努める。

このようなねらいのもと、指導過程5段階モデルを位置づけた単元を構想する。

(4) 所属校による提案授業

単元構想シートによる提案授業を、所属校にて実施した(表6)。第一次は、単元の見通しを持たせるとともに、宮沢賢治と作品に対する児童の印象を捉えるように努めた。児童は、先行読書に先立ち、地域の読み聞かせサークルによる宮沢賢治作品の読み聞かせを体験しており、興味を持って作品を読むことができているように感じられた(注4)。

第二次は、ワークシートに到達目標となる自己評価を児童に示し、学習のねらいを意識して取り組ませた。授業を実施する際は、単元構想シートに示した評価規準及び判断のポイントをもとに、指導と支援の充実に取り組んだ。全体読みⅠで取り入れた言語活動ツールの構成要素「スライドマップ」は、児童の読みのレベルを一定の基準にまで引き上げるとともに、授業時の支援、成果物による児童の読み取りの課題分析に役立った。また、授業後は、ワークシートの内容とふり返りの自己評価、自由記述より、児童のつまずきの所在を明らかにし、次時の指導細案の修正を通じた授業づくりに取り組んだ。これらの取組は、全体読みⅠ、細部読みによる学習内容の積み重ねを生み、全体読みⅡの読み取りに生かされた。そのため、必要とした支援も読み取りが進むにつれて減少し、自身が読み取った内容をもとに学習を進める児童の姿が見られた。

第三次は、作成した推薦リーフレットを交流し、イーハトーヴの世界の魅力について話し合うことで、学習のまとめとした。

4 研究をふり返って

(1) 研究の成果

単元構想シートを作成することで、授業における指導のねらいが把握でき、そのため評価規準も明確化されたと考える。授業中においても、評価の視点(評価規準及び判断のポイント)が明確になることで、個に応じた指導と支援が行えた。また、指導過程5段階モデルを取り入れたことで、第二次の指導内容と付きたい力の習得に至る過程が明確なものとなり、先を見通した指導を取り入れることができた。

全体読みⅠにおいては、児童に作品の概要を捉えさせたことで、その後の学習活動を円滑に進めることにつながったと考える。児童のふり返りには、「スライドマップに関係図を書くことでよく話が分かった。」等の記述があり、この学習を行うことで、読みのレベルが引き上げられたことも分かる。また、児童の作品を分析することで、つまずきの内容が明らかになり、次時の指導過程の修正、個に応じた支援にもつながった。

細部読みにおいて視点を定めて読み取らせたことは、全体読みⅠの内容と関連づけることで、場面の描写や優れた叙述の意味を考える活動へと導いた。この読み取りは、全体読みⅡで自分の考えを表現する根拠となった。以下にその例を示す。ある児童は、「やまなし」において、全体読みⅠ「キャッチコピー」、全体読みⅡ「スポ

表6 所属校による提案授業

○対象	有田市立初島小学校 第6学年 (男子9名, 女子7名, 計16名)
○日時	平成27年10月30日(金)~11月17日(火)
○単元名	『スライドブックで魅力を推薦!! イーハトーヴの世界展を開こう』
○教材名	「やまなし」「(資料)イーハトーヴの夢」 (光村図書『国語六』)

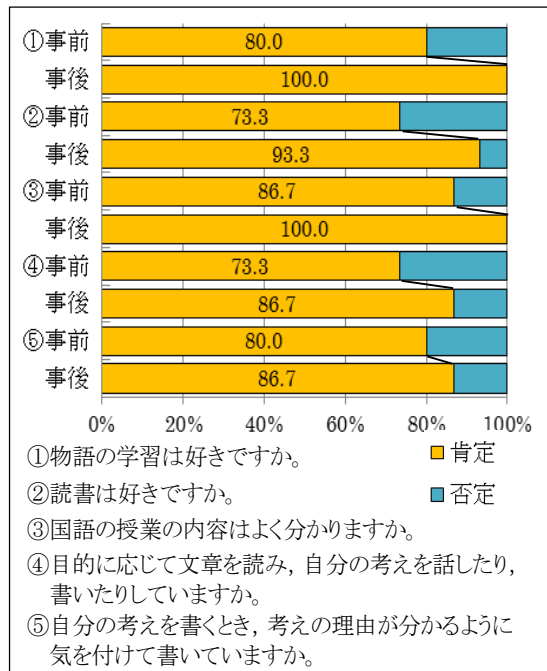


図3 児童アンケートの結果

ットライト」双方で、魅力的な場面として、「かわせみ」の場面を選んだ。前者の理由は、「インパクトが強いから。」であったのに対して、後者のそれは、「やまなし（与える）と比較して奪うことはいけないということを伝えたかった。」というものに変化した。これは、「対比の視点」による補助発問から導かれたものであるが、細部読みで事件の意味を理解し、物語の展開と構成を意識しながら作品を読み取れていたことが窺える。この児童は、選んだ一冊に対しても、物語の展開を作品の魅力とし、根拠を示してスポットライトに表現している。このように、指導過程5段階モデルを位置づけた指導は、全体読みⅠ、細部読み、全体読みⅡという読み取りの積み重ねを生み、単元構想シートによる評価、支援と併せることで、児童の理解の向上を促した。

このことは授業前後に取った、関心（グラフ①、②）、理解（グラフ③）、言語活動（グラフ④、⑤）への意識を問う児童アンケートの結果（図3）にも表れている。グラフでは、関心と理解の割合が上昇している。また、推薦文の記述に関係するグラフ④、⑤が向上していることから、付けたい力を育成するうえでプラスの効果があったと考えられる。

このように、単元構想シートの作成は、教師の評価の視点と児童の見取りをより明確なものにしたといえる。図4の左の文章は、第8時で児童が作品の魅力として記述したものである。場面の描写を捉えてはいるものの、根拠となる記述の不足がみられた。そこで、第9時の導入で、「スポットライト」のモデルを提示し、物語の展開の意味を考えて根拠を表現すること、作者が伝えたかった思いと関連づけて表記することを伝えた。その結果、選んだ一冊では、図4の右に示すような推薦文を書くことができた。第8時での推薦文と比較すると情報量も増え、その内容は推薦文にふさわしいものであった。また、「気づいたときには、扉が一枚」

など作者の意図を踏まえたような表現は、評価規準及び判断のポイント（表7）に示す、「概ね満足な状況B」を満たすとともに、「十分満足な状況A」を満たす要素も含んでいる。このように、評価の視点、児童の見取りの明確化は、効果的な支援になるとともに、先を見通した指導と支援につながったと考える。

私が選んだ作品のみりよは、「金剛石の粉をはいてるようでした。」です。理由は、水の中にダイヤモンドがばらまかれた様子が思いうかんだからです。きらきらしたダイヤモンドが水中で光るのを見てみたいと思ったからです。この作品は、情景が豊かな作品です。表現もきれいで宮沢賢治らしい言葉が出てくるのも特徴です。

第8時「やまなし」

➡

私が選んだ作品のみりよは、「二人の若い紳士がやまねこに仕返しをされるところから早くタンタアーンとやってみたい」と言っていました。また、白熊のような犬が死んでしまったときに、「二千四百円の損害」や「二千八百円の損害」などと言った。動物の命を大切にしていませんでした。そして、「西洋料理店山猫軒」にいるやまねこにより、仕返しを受けたのです。何もうたがわずに指示どおりにする紳士。やつと気付いたときには、もう扉が一枚。動物の命を大切にしなければいけないということを伝えてくれる宮沢賢治らしい作品です。

第9時「注文の多い料理店」

（物語の展開の意味）

図4 児童の「スポットライト」への記述

以上のように、単元構想シートの作成と、それを活用した授業づくりは、付けたい力の習得に一定の効果を示したと考えられる。また、指導過程5段階モデルを取り入れたことで、評価の視点がより明確なものとなり、評価、指導、支援の充実につながったとも考えられる。

表7 単元構想シートⅡ（一部抜粋）

時	⑤ 主な学習活動 (◇評価時の活動)	⑥ 言語活動						⑦ 指導事項			⑧ 評価規準及び判断のポイント		
		スライドマップ	キャッチコピー	スポットライト	Cエ	Cイ	Cカ	他	言語	概ね満足な状況B (観点)[方法]	十分満足な状況A を満たす要素	努力が必要な状況C 【支援の方法】	
8 習得	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」の魅力について、自分の考えをまとめる。 ・作品の魅力を交流し、共有する。 ◇作品の魅力をスポットライトに表現し、交流する。 			◆	◎					◇優れた叙述をもとに、作品の魅力について自分の考えをまとめ、スポットライトに表現している。(Cエ)[観察・ワークシート]	○作品世界や作者の意図と関係付けながら、その魅力について自分の考えを表現している。	●叙述の記述に留まり、魅力に対する自分の考えを述べるのが難しい。【叙述のあとに、心に残った理由やその説明を記述するように助言する。】	
9 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・スポットライトに表現する内容を確認する。 ・「自分の一冊」の魅力について、考えをまとめる。 ◇作品の魅力をスポットライトに表現し、交流する。 			◆	◎		○						

（２）今後に向けて

単元構想シートの活用は、教材「やまなし」における単元の構想及び授業づくりにおいて一定の成果を得た。今後は、他教材においても作成することで、単元構想シートをより使いやすく、より評価しやすいものへ改良を重ねていきたいと考える。また、本研究で取り入れた全体読みⅠ（スライドマップ）は、高学年用に設定しているため、中学年、低学年教材でどう対応させるかも考えていく必要がある。

このように、今後は、授業づくりを異学年、他教材に広げるとともに、指導と評価、支援を重視した授業づくりをさらに進めていきたい。

〈注釈〉

- 注 1 光村図書教科書の単元末にある学習の手引きには、上段に読みの力を育む設問、下段に言語活動の手順が記載されており、身に付けたい力を常に意識しながら学習活動が行えるようになっている。また、単元間の関連、学年間の系統性を捉えることもできる。
- 注 2 伊藤は、白石の「3段階の読み」と水戸部の「言語活動」を融合し、「指導過程5段階モデル」（第1段階で単元全体の見通しを持ち、第2段階から第4段階を、全体読みⅠ、細部読み、全体読みⅡと定め、第5段階で、学習内容を活用する）を提示し、双方の良さを組み合わせた指導法を提唱している。
- 注 3 白石は、作品全体を丸ごと捉えた読みから、細部を読み、もう一度全体を捉え直す、「3段階の読み」を提唱し、児童に読みの方向を示すことを説いている。
- 注 4 読み聞かせは、年間を通じて継続的に行われている。作品については、学校の要望にも応えてくれるため、国語科の学習内容と関連づけたものも扱われる。今回は、「雪渡り」で実施されたことから、先行読書教材に取り入れ、学習モデルの提示にも利用した。

〈引用文献〉

- ※ 1 伊藤義昭（2013）『小学校国語の授業改善に向けた年間を通じた学校への支援に関する研究—校内研修の活性化を目的とした学校外部による訪問を通して—』和歌山県教育センター学びの丘『平成 25 年度研究紀要』 pp. 4

〈参考文献〉

- ・北尾倫彦（2011）『平成23年度版 観点別学習状況の評価規準と判断基準（小学校国語）』図書文化
- ・国立教育政策研究所教育課程センター（2011）『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』教育出版
- ・白石範孝（2011）『3段階で読む新しい国語授業』文溪堂
- ・白石範孝（2013）『国語授業を変える「用語」』文溪堂
- ・田中孝一・水戸部修治（2011）『新評価規準を生かす授業づくり 小学校編 1国語科・算数科』ぎょうせい
- ・田中耕治（2011）『パフォーマンス評価 —思考力・判断力・表現力を育む授業づくり—』ぎょうせい
- ・西岡加名恵（2008）『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書出版
- ・水戸部修治（2011）『イラスト図解でひと目でわかる！ 小学校国語科 言語活動パーフェクトガイド5・6年』明治図書出版
- ・文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

単元構想シートⅠ 単元名：「スライドブック」で魅力を推薦!!イーハートヴの世界展を開こう（「やまなし」「イーハートヴの夢」）

①「学習の手引き」の内容分析		「学習の手引き」の内容		関連指導事項	重点指導事項(Ｃエ)との関係
リード文	すぐれた表現を味わいながら読み、自分なりの思いや考えをもと。	簡単な絵や図に表す。	Ｃエ、伝国イ②	優れた叙述について自分の考えをまとめる(表現や内容)	
内容(1)	物語にえがかれた世界を、自分なりに捉える。	谷川の様子を文章から捉える。	Ｃエ	場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	
内容(2)	二つの場面を対比し、考えをまとめる。	会話や様子、水や光の様子、色、侵入者	Ｃエ	場面についての描写(行動、会話、情景で暗示的に示されたものを捉えるため)	
内容(3)	作者の独特の表現から、その情景を想像する。	オノマトペ、比喻など	Ｃエ、伝国イ④	優れた叙述(象徴性や暗示性が高い)、メッセーや題材を強く意識させる)	
自己評価	「やまなし」の中で、どのような言葉や表現に心を引かれたか。		Ｃエ、伝国イ④	優れた叙述(感動やユーモア、安らぎなどを生み出す叙述)	
たいせつ(1)	登場人物の心情や場面の様子などを想像し、作品世界を理解する。		Ｃエ	場面についての描写、優れた叙述	
たいせつ(2)	読んで感じ取った自分の思いの表現方法を考える。		Ｃエ、伝国イ②	優れた叙述の評価と自分の表現に生かすこと	
たいせつ(3)	必要に応じて、作者について調べたり、作者の他の作品などを参考にしたりする。		Ｃイ、Ｃカ	優れた叙述を捉えるための工夫、手段	
② 付けたい力	場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる。(Ｃエ) * 関連指導事項(Ｃイ：効果的な読み方、Ｃカ：目的に応じた読書)				
③ 言語活動とその内容	『イーハートヴの世界展を開き、作品の魅力を「スライドブック」で推薦する。』(スライドブックにした「揭示型二つ折りリーフレット」)				
言語活動の構成		指導事項			
構成要素(1)	キヤッチコピー(表紙：作品の中心部)	指導過程の位置づけ			
構成要素(2)	スライドマップ(内側Ⅰ：作品の設定と概要)	全体読みⅠ			
構成要素(3)	スポットライト(内側Ⅱ：作品の魅力)	全体読みⅡ			
構成要素(1)キヤッチコピー		構成要素(2)スライドマップ			
<ul style="list-style-type: none"> ・物語の設定と概要を捉える。 → 物語の全体像を捉えさせる。 ・事件の内容を捉える。 ・物語の展開が大きく動く場面を捉える。 ・人物の気持ちが大きく動く場面を捉える。 ・特別な言葉が使われている場面を捉える。 → 物語の魅力的な場面の描写を捉えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・主要な登場人物や特別な役割をもつものの関係を知る。 ・物語の中の特別な言葉(時、場所、名前など)を捉える。 → 物語の展開を捉えさせる。 ・出来事と事件を物語の展開に沿って読む。 ・それぞれの出来事、事件の中心部を捉える。 ・出来事と事件の関係を捉える。 → 物語の概要を捉えさせる。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な場面の描写を捉える。 ・特別な言葉と作品の関係を捉える。 ・表現方法を考える。(比喻、倒置など) → 上記3項目をもとにキヤッチコピーに表現させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や特別な役割をもつものの関係をまとめる。 ・出来事や事件をそれぞれ短く書き出す。 ・特別な言葉を書き出す。 → 上記3項目をもとに図と言葉でスライドマップに表現させる。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・作者の作品を多読し、作品の特徴(作品世界)を捉える。 → 作風を捉えさせる。 ・宮沢賢治の生き方や考え方を調べて人物像を捉える。 → 登場人物の設定や物語の展開を捉えさせる。 ・作家として宮沢賢治が作品に込めた願いを捉える。 → 物語の展開や主題を捉えさせる。 ・オノマトペや比喻などの表現法をもとに作品を読む。 → 優れた叙述や特有の表現を捉えさせる。 ・心に残った場面の描写を関連づけながら推薦内容を捉える。 ・作品の魅力について、優れた叙述をもとに自分の考えをまとめる。 ・推薦文の構成内容(魅力、理由、メッセー)を考える。 → 上記3項目をもとにスポットライトに表現させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・構成要素(3)スポットライト 			
学習活動と指導のねらい					
④ 単元の評価規準					
○「スライドブック」を通して、宮沢賢治の人物像と作風を捉えながら、関心を持って作品を推薦しようとしている。(関心・意欲・態度)					
○場面についての描写を捉え、優れた叙述について「スライドブック」に自分の考えをまとめることができる。(Ｃエ)					
○多読を通して、作者の作品世界を捉えただうえで、「スライドブック」に自分の考えをまとめることができる。(Ｃイ、Ｃカ)					
○作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に関心を持つことができる。(伝国イ(カ))					

単元構想シートⅡ

時	⑤ 主な学習活動（◇評価時の活動）	⑥ 言語活動				⑦ 指導事項				⑧ 評価規準及び判断のポイント		
		スライドマップ	キャラクター	スポットライト	C E	C I	C カ	C 他	言語	概ね満足な状況B (観点)【方法】	十分満足な状況A を演じた要素	努力が必要な状況C 【支援の方法】
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目的、スライドブックの構成要素と役割を捉える。 ◇学習計画を立て、見直しを持つ。 ・並行読書の1冊を決める。 	◆	◆	◆	○	○	○	○	イ エ	◇作品の魅力や推薦するスライドブックに興味を膨らませ、学習の見直しを特約している。(関心・意欲・態度)【観察・ワークシート】	◇構成要素の特徴と学習内容を理解し、目的意識を持って取り組んでいる。	●スライドブックの構成要素と学習内容について、見直しを持ちつづかい、計画表とモデリングを掲示しておくことで支援の一助とする。】
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」の設定と概要を捉える。 ◇設定と概要をもとに、関係図に表現する。 	◆			◎				イ エ	◇登場人物と出来事を中心に物語の設定と概要を捉え、スライドマップに作品内容を表現している。(Cエ)【観察・ワークシート】	●登場人物の役割と出来事の意味を関係づけながら、物語の設定と概要を捉えていく。	●登場人物を表記するだけで、それらの関係を表現するよう助言する。】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の一冊」の設定と概要を捉える。 ◇設定と概要をスライドマップに表現する。 	◆			◎				イ エ	◇場面の描写について自分の考えをまとめ、言葉を選びながらキャラクターを表現している。(Cエ)【観察・ワークシート】	●場面の描写が捉えきれず、文章を引用するだけの表記に留まる。【選んだ場面の前後で関係の深い出来事と関係づけて表現するよう助言する。】	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」でキャラクターに表現したい場面について考えをまとめる。 ・場面の描写について考えを交流する。 ・人物の言動、場面の様子、情景に着目して「自分の一冊」を読む。 ◇場面の描写を捉え、キャラクターに表現する。 		◆		◎	○	エ		イ エ	◇人物相互の関係とその役割を統合的に捉え、表現している。	●人物の設定や役割を捉えきれず、叙述をそのまま記述するに留まる。【記述している部分の言動や出来事の意味を考えるように助言する。】	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の人物像を捉え、交流する。(「イーハートヴの夢」) ・「やまなし」の登場人物の設定と相互関係について話し合う。 ◇「自分の一冊」で、人物の設定と相互関係について考えをまとめる。 			◆	◎	○	○		イ エ	◇優れた叙述と作者の願いから、作品に込められた思いを想像し、根拠を示して記述している。(Cエ)【観察・ワークシート】	●考えの根拠が弱く、自分の思いを中心に書いていく。【根拠とする叙述について、そう考えた理由を表現するよう助言する。】	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治が作品に込めた願いを捉える。(「イーハートヴの夢」) ・「やまなし」に込められた作者の願いについて話し合う。 ◇「自分の一冊」を読み、作者の願いについて自分の考えをまとめる。 			◆	◎	○	○		イ エ	◇表現に着目して作品を読み、情景描写について自分の考えをまとめている。(Cエ)【観察・ワークシート】	●場面の様子を表記するに留まっている。【人物の言動や出来事と関係づけたら場面の様子をつぶらませ、考えを記述するよう支援する。】	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に着目して「やまなし」を読む。(比喩、オノマトペ、色彩表現) ・情景描写について自分の考えをまとめ、交流する。 ◇「自分の一冊」を読み、情景描写について自分の考えをまとめる。 			◆	◎	○	○		イ エ	◇優れた叙述をもとに、作品の魅力について自分の考えをまとめ、スポットライトに表現している。(Cエ)【観察・ワークシート】	●作品世界や作者の意図と関係づけながら、その魅力について自分の考えを表現している。	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」の魅力について、自分の考えをまとめる。 ・作品の魅力进行交流し、共有する。 ◇作品の魅力やスポットライトに表現し、交流する。 ・スポットライトに表現する内容を確認する。 			◆	◎							
9	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の一冊」の魅力について、考えをまとめる。 ◇作品の魅力やスポットライトに表現し、交流する。 			◆	◎		○					
10	<ul style="list-style-type: none"> ・「スライドブック」を交流し、作品の魅力や共有する。 ・イーハートヴの世界の魅力について考える。 ◇学習をふり返り、学習後の感想を書く。 	◆	◆	◆	◎				イ エ	◇「スライドブック」の交流を通して、自分の読み取りをふり返り、学習のまとめをしようとしている。(関心・意欲・態度)【観察・ワークシート】	●自分のしたことに対する学習のふり返りに留まる。【作品や作者に対して思ったことや考えたことを記述するよう助言する。】	